

報告日 令和7年11月25日
報告回次 2回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	富山県			代表者名	新田 八郎
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	デジタル化推進室 情報システム課	連絡先電話番号	076-444-8934
担当者役職	主任	担当者氏名	山崎和登	連絡先E-mail	
住所	930-8501 富山県富山市新緑曲輪1-7				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	特定個人情報保護のための安全管理措置研修		
概要	地方公共団体に求められる特定個人情報の適正な取り扱いについて研修を実施するほか、個人番号利用事務について見直しの考え方や留意点等その手法を学ぶもの				
支援を求める分野	マイナンバー 自治体セキュリティ				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年11月25日	支援・助言(実地)	9時00分	16時00分	70
				活動時間（分）	350
2-2. 派遣場所	会場名	富山県民会館		最寄駅	富山駅
	所在地	富山県富山市新緑曲輪4番18号		最寄駅からの交通手段	徒歩10分

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	高村 弘史
評価	大変良い
上記評価の理由 (どのようにと ころがよかつた か等詳細に)	・2日目は、1日目の基礎知識（安全管理措置等）を前提とした上で、実務に直結する業務フロー研修とグループディスカッションを主導していただいた。 ・参加者が所属や業務の垣根を越えて意見交換することで、他部署の事例や課題を共有でき、自己の業務フローを見直すまでの多角的な視点を得ることができた。 ・アドバイザーには、各グループのディスカッションを巡回し、具体的な業務フローの作成や事務取扱要領の見直しに関する専門的かつ実践的な助言を適宜提供していただいた。これにより、議論が抽象的なレベルに留まらず、具体的な改善案へと繋がった。
アドバイザー への要望事項	・グループディスカッションの時間が大変有益であったため、可能であれば、質疑応答やグループ発表の時間をもう少し長く確保できれば、さらに深く議論できたという意見があった。 ・次回実施する際には、より多くのグループが成果を共有できるような発表形式の工夫や、質疑応答の時間を確保することを検討したい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】			合計人数	107人
	属性	自治体職員	住民		
		企業・団体	その他(学生など)		
	人数	107			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	・事務取扱要領の見直しは、知識だけでなく「どう業務に落とし込むか」という実務的手法が求められるが、県職員だけでは具体的な業務フローの作成・検証のノウハウが不足していた。 ・各所属が抱える特定個人情報等の取扱いの実態や課題が異なるため、一律の講義だけでは対応が難しく、相互に学び合う実践的な演習の場が必要であった。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	・参加者が所属の個人番号利用事務に関する業務フローを具体的に作成し、特定個人情報保護の観点から潜在的なリスクや課題を特定できるようになる。 ・グループディスカッションを通じて、多角的な視点で自所属の事務取扱要領見直しの方向性や具体的な改善点を明確にする。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	【安全管理措置実施・見直しのための業務フロー研修】 ・1日目の知識を活用した業務フロー図の作成演習。 【グループディスカッション】 ・作成した業務フローに基づき、特定個人情報の保護に関するリスク評価と具体的な改善策を討議。 ・事務取扱要領を見直すまでの実践的な課題共有と意見交換。
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	・具体的な事務取扱要領の見直しに向けたアクションプランを、各所属の担当者が持ち帰ることができた。 ・グループ討議を通じて、特定個人情報等の取扱いにおいて「形式的になりがちな部分」や「見落としやすいリスク」について深く掘り下げ、実践的な気づきを得ることができた。 ・各々が安全管理措置について理解を深め、業務フロー研修により事務取扱要領を見直すための具体的な考え方や留意点を演習形式で体験的に習得できた。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 2日目の成果物としては、各グループで作成・討議した「業務フロー図（ドラフト）」と「要領見直しに向けた課題リスト」があるが、これらを基に各所属で正式な事務取扱要領への改訂作業を今後行う。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	研修で得た知見と業務フロー（ドラフト）を、各所属における正式な事務取扱要領の改訂作業に落とし込むこと。また、改訂後の要領に基づく職員への周知徹底と教育
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 ・目的：講義内容の評価と今後の研修ニーズ把握。 ・結果：講義内容について95%の参加者が「大変関心があった」「関心があった」と回答し、90%の参加者が「大変参考になった」「参考になった」と回答した。 ・分析：参加者の関心度、満足度が極めて高く、アドバイザーの専門知識と実践的な講義構成が、県が抱えていた課題（専門的知識の不足、事務要領見直しの手法未熟）の解決に直結したことを示している。
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい ⑤その他 ・個人番号利用事務等については、制度が頻繁に更新され、利用範囲が日々拡大している。そのため、特定個人情報等の適正な取扱いを維持するためには、職員の継続的な理解促進が必要である。 ・今回の研修の成果を踏まえ、今後も最新の知見を取り入れた研修を定期的かつ継続的に実施していきたい。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	・全職員が特定個人情報等の適正な取扱いについて深いレベルで理解し、保護意識を常に高く維持している状態。 ・各所属の事務取扱担当者が、制度改正や業務内容の変更に柔軟に対応できるよう、事務取扱要領を見直すための考え方や留意点、その手法を完全に習得し、自己点検・改善が恒常的に行われている状態。 ・これにより、特定個人情報等に対する県民の信頼を確保し、安全で安心な行政サービスを提供し続けること。

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載不可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

